

健康保険組合の 財政がピンチです

1 2011年度決算は3489億円の赤字

健保連が発表した2011年度の健保組合の決算見込によると、1443の健保組合のうち約8割(1101組合)が赤字で、その赤字額は過去4番目の3489億円にのぼることがわかりました。健保組合全体の決算赤字は08年度の高齢者医療制度(解説を参照)の創設以降4年連続で、累積の赤字額は1.6兆円を超える巨額なものとなっています。

赤字となった最大の原因は、高齢者医療制度への負担金が前年度に比べ2302億円増加し、2.9兆円と過去最高となったためです。2011年度には健保組合全体の4割にあたる571組合が保険料率(コラムを参照)を引き上げましたが、高齢者医療制度への負担金が保険料収入の伸びを上回り、健保組合の財政を圧迫しています。多くの健保組合では、積み立ててきた資産を取り崩して赤字を埋めています。このままではあと数年で尽きてしまいます。

12~14年度にかけては、約700万人の「団塊の世代」が65歳以上の高齢者になり、支えられる側にまわります。そのため、健保組合の負担はさらに増すことが見込まれており、財政が一層深刻な状況に陥ることが予想されます。

サラリーマンの皆さんやご家族の健康を守ってきた健保組合がピンチです。

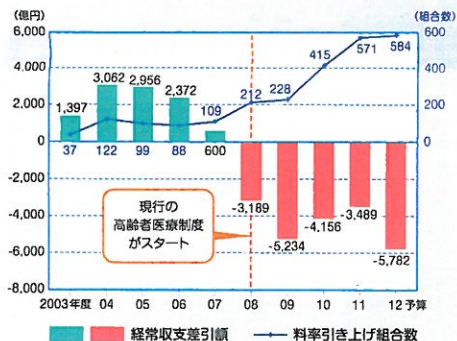
健保連が9月13日に発表した、「平成23年度健保組合決算見込の概要」によると、2011年度の赤字額は3489億円で、4年連続の赤字になることが明らかになりました。今月の特集では、健保組合の財政状況や赤字が続いている理由を解説します。



Illustration: Iotomu Watanabe

健保組合の経常収支状況と保険料引き上げ組合数の推移

経常収支: 通常の運営にあたり必要となる収入と支出の差額を単年度でみたもの



(注) 2003年度~10年度までは決算、11年度は決算見込、12年度は予算早期集計の推定

※「平成23年度健保組合決算見込の概要」より

解説します!

高齢者医療制度とは?

高齢化により増大する高齢者の医療費を、国民全体で負担する仕組みです。

現在は、75歳以上の高齢者を対象とした「後期高齢者医療制度」と65~74歳を対象とした「前期高齢者医療制度」の2つがあります。

高齢者の医療費は、高齢者本人とサラリーマンなど現役世代が支払う保険料や税金で賄われています。

2 健保組合財政はなぜ赤字に?

どうして健保組合の財政は赤字になったのでしょうか? それは08年度の法律改正で高齢者の医療費を支える仕組みが見直され、健保組合の負担が大きく増えたためです。

法律改正前の07年度の高齢者医療制度への負担金は、健保組合1人当たり平均(年間)で14.7万円でした。しかし、法律改正後の08年度は16%増の17.1万円と一気に跳ね上がり、11年度には18.4万円と、法律改正前に比べ3.7万円も増加しています。

厳しい経済情勢が続き、健保組合の保険料収入が伸び悩むなか、負担だけが大きく増えたため、健保組合の財政は急激に悪化しました。

11年度の保険料収入は、事業主と健保組合に加入している皆さんの負担分を合わせ、1人当たり平均(年間)で41.7万円ですが、そのうち44.1%にあたる18.4万円は高齢者医療制度への負担金に充てられ、その割合は年々高くなっています。このため、多くの健保組合では、加入者の皆さんのために実施している各種健診や健康増進などの保健事業の費用を削減しなければならない状況になっています。



意識していますか? あなたの保険料

給与明細書のなかに「健康保険」という欄がある

給与明細書のなかに「健康保険」という欄があることをご存知ですか? その欄の額が、毎月の給与や賞与から天引きされる形で、あなたが加入する健保組合に支払った保険料の金額です。

「健康保険」の保険料は、原則として会社と本人が折半して負担し、医療費の支払いや高齢者医療制度への負担金に充てられます。扶養されている家族が保険料を負担することはありません。

保険料の金額は、給与や賞与の額に一定の率を乗じて算定されます。この率を「保険料率」といい、健保組合ごとに設定されています。

また、天引きされる保険料には、「健康保険」のほかに「介護保険」「厚生年金」などがあります。

3 これから健保組合はどうなるの?

日本人の平均寿命をみると、1960年は女性70.2歳、男性65.3歳でしたが、2011年度には女性85.9歳、男性79.4歳と、半世紀で約15歳延び、世界でも有数の長寿国になりました。これは、医療技術の向上だけではなく、国民すべてが何らかの公的医療保険制度に加入し、「誰もが、必要ときに必要な医療を受けられる」という国民皆保険制度が1961年に導入されたことが大きく貢献しています。

現在、高齢者の医療費は、現役世代が加入する健保組合などの医療保険者が支援していますが、今後増え続ける高齢者の医療費をどのように支えていくかが大きな課題となっています。1990年には現役世代5.1人で1人の高齢者を支えていましたが、2010年には2.6人で支えています。わずか20年間で支える側が半減し、支えられる側とのバランスが崩れ、現役世代の負担はもはや限界に達しています。

わが国の医療費は毎年1兆円を超えて増加し、2010年度には37.4兆円に達し、私たちの保険料や税金だけでは支えきれない規模にふくらんでいます。このままでは、加入者の皆さんの健康を守り、国民皆保険制度を支えてきた健保組合は存続の危機に直面してしまいます。

健保組合と健保連は、健保組合の財政悪化に歯止めをかけ、国民皆保険制度を守るためにも、高齢者医療制度に公費(税金)を投入・拡充することを求め、安定した運営をできるように国に働きかけています。

医療費は年間どれくらいかかる?

75歳以上にかかる医療費は、65歳未満の人の5倍以上!

65歳未満	65歳以上	75歳以上(両側)
16.9万円	70.3万円	87.9万円

上記金額は、1人当たりの平均値です

※2012年9月 厚生労働省発表「平成22年度 国民医療費の概況」より

